

A. 主な動き

1. 内政

- ・14日、ストリレツ自由民主党議会会派代表は、議員不可侵権を撤廃する憲法改正案を議会に提案する意向である旨発言。議員の不可侵権撤廃に関し、同日、ルプ民主党党首は賛成、ハダルカ自由党議会会派代表は反対の意向を表明。
- ・15日、議会は、共産党によるプラホトニク議会第一副議長の辞職決議案を否決。

2. 経済

▼マクロ経済

- ・15日、ゲオルギエフIMF欧州局局長は、2012年のモルドバ GDP 成長率が0.3%となるだろう旨発言。同氏は2つの主な原因である、予期できない夏の干ばつとモルドバのパートナー国の経済低迷が経済成長を鈍化させることになるだろうが、IMFは2013年の GDP 成長率を4%と予測している旨併せて言及。

▼IMF

- ・11日、モルドバを訪問中のゲオルギエフIMF欧州局局長は、訪問中、モルドバの政府高官と、経済や教育、農業の分野でとるべき方策について合意するために議論するであろう、モルドバの財政・経済の安定性を確保し、改革を支援するために予算政策を協議することになるだろう旨発言。
- ・15日、ストゥルザ元首相は予期しない経済的困難の中、モルドバは新たなIMFとの協力プログラムをもつべきであろう、

モルドバの経済成長の鈍化の可能性を考慮するとオープン金融市場から融資を調達することは困難であるが、二国間協定と同様に国際的な財政機関からのみ融資を受けることが可能であろう旨発言。

- ・16日、ゲオルギエフIMF欧州局局長は、モルドバ政府との新たな協力プログラムが可能であることに言及し、新たなプログラムに関する問題を徹底的に議論するために、IMFは来年2～3月にモルドバを訪問する可能性がある旨発言。

3. 外政

▼モルドバ・ロシア経済協力政府間委員会の開催

- ・16日、キシナウにおいて、モルドバ・ロシア経済協力政府間委員会が開催され、出席したフィラト首相及びロゴジン露副首相は、投資分野における両国間協力の活性化を強調。
- ・同日、フィラト首相は、ロゴジン露副首相と会談し、経済及び教育分野における協力の強化、沿ドニエストル問題等に関し協議し、ロゴジン副首相は、バルチ及びティラスポリへの露領事館開設の意向を伝達。双方は、ティラスポリ領事館に関し22日にモルドバ・ロシア領事協議の枠組みにおいて議論を継続することで合意。

4. 沿ドニエストル

- ・14日、カルポフ国家再統合問題担当副首相は、ティラスポリのOSCE事務所においてシュタンスキ「外相」と実務協議を実施し、経済問題の解決を中心に意見交換。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。
(了)